

地域と協働し3年かけて進路意識を育成、就職内定率100%を達成

毎号1校ずつ高校にご登場いただき、進路指導の取り組みをご紹介します。

第3回の今回は、キャリア教育を強化し県内での評価が高まっている青森県立百石高校。

地域と密接につながりながら、生徒の将来を見据え、3年間かけてじっくりと育てていく取り組みをご紹介します。

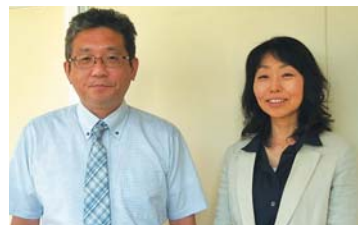
取材・文／永井ミカ

百石高校 (青森・県立)

■ 分掌を超え学校全体が取り組むキャリア教育(抜粋)

授業改革	
アクティブラーニング型授業の推進	生徒が気付き、考え、伝えあう授業。生徒の活動・体験を重視。おいらせ町の補助で購入したタブレットPCなども活用。
学校設定科目「新聞を読もう」の推進	読む力、書く力の定着と、情報収集と分析活用を通じて自己表現力の育成を図る探求型授業。記者による出前授業も実施。
地域連携・世代間交流	
老人施設体験学習	外部講師の体験学習の後で施設を訪問。高齢者との交流を図るとともに、産業や職業の理解を深める。
保育園体験学習	家庭科の授業の一環。園児とのふれあいを通じて異年齢とのコミュニケーションを図る力を育成。
消費者教育	青森県消費生活センターによる家庭科での授業。消費者と製造者のそれぞれの視点から安全問題を考える。
成人式もてなし料理提供(食物調理科)	町の要請に応え実施。300人分の調理と配膳、会食のもてなしを実践的に学ぶ。
その他	
生徒会活動	定員の定めがなく、希望者の多くは役員となり、活発に意見を交わし主体的に行事運営を行う。
資格取得支援	検定料の一部を町が補助。生徒が目標とする資格取得に向けて講習会や校内模試などで支援。

進路指導主事
宮本利行先生(左)
進路指導副主任
天坂美幸先生(右)



青森県立百石高校はおよそ3分の2の生徒が就職する進路多様校。調理師免許が取得できる食物調理科に比べ、普通科は際立った特色がないという認識をされていた。しかし同校は、入学してくる生徒の学び直しに力を入れ、キャリア教育にも地道に取り組む、地域とも密に連携していた。また生徒会活動が盛んであるという伝統もあった。にもかかわらず、地元からの入学者が減り、2014年度の入学

者選抜で倍率が1倍を下回った。危機感を感じた校長の荒川由美子先生は、周辺中学校への聞き取り調査やフリーマーケット職員会議(管理職以外全員参加)などを経て普通科の特色を整理。従来から取り組んできたことに加え、アクティブラーニングの定着など新しい魅力づくりにも着手。新キャッチフレーズ「発見・挑戦・実現〜君の輝く場所がある〜」を掲げ、教職員にも意識づけした。そして、取り組みを学校から発信することにも力を入れ、2015年度、キャリア教育優良学校として文部科学大臣賞を受賞した。

キャリア教育優良学校 文部科学大臣賞受賞

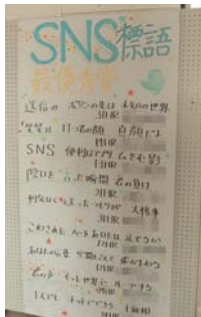


地域社会と協力したキャリア教育の充実が認められての受賞。

生徒会による掲示物



同校では多くの生徒が生徒会活動に参加している。SNS標語づくりなど、自主的な活動が目立つ。地域のイベントなどにも積極的に参加。



School Data

1948年創立／普通科・食物調理科
生徒数451人(男子191人・女子260人)
進路状況(2016年3月実績)／大学進学8人、短大進学13人、専各進学31人、就職94人、その他2人

■ 地域連携を中心としたキャリア教育・進路指導の取り組み

1年生 テーマ「発見」	自分の良さや気付き、自己の在り方、社会への関わり方について考える姿勢を身に付ける		
	地域を知る	6~10月	生まれ育った地域の自然や歴史、文化、産業について考察させ、グループワークによる制作物作成、ポスター発表を行う。
		12~2月	町長との懇談会に向けて、ポスター発表の内容からテーマを設定。プレゼン用の資料を作成、プレゼン練習、発表会を経て代表発表者を決定、町長と意見交換を行う。
	職業を知る	10~11月	地元企業協力企業の事前学習。
12月		地元企業研究会で企業や仕事の説明を聞き、質疑応答を行い、ワークシートを完成させ、後日、班ごとの情報交換会を行う。	
2年生 テーマ「挑戦」	自己の適性、可能性を高め、学ぶことへの意義や役割について理解を深める		
	職業理解	5~6月	企業見学会に向けて、見学先の地元企業について調べ学習を行い、働くことの意義を考える。
	就業体験	7~11月	インターンシップ先を決定する。ビジネスマナー講習会を経て、就業体験を実施。事後に報告書を作成し、職業理解を深める。
	就業体験報告会	12~1月	就業体験を通してわかったこと、考えたことを振り返り、わかりやすくまとめ、1年生に向けて報告する。
3年生 テーマ「実現」	進路志望実現に向けて取り組むとともに、社会に貢献しようとする態度を身に付ける		
	テーマ別研究	5月	KJ法を用いた探究。グループワークにて意見をまとめ、発表する。
	自己探求	6月	自己の経験から強みを見出し、自己を受容し、自己PRシートを作成。グループ内発表とプレ面接を行う。
	合同就職説明会	7月	地元企業の協力を得て、学校独自で実施。求人内容の理解を深め、応募先選択の一助とする。
	模擬面接	9月	地元企業人、PTA・同窓会などの外部関係者の協力を得て実施。生徒自ら課題と努力目標を設定し、進路実現へのステップとする。
	受験体験発表会	1月	受験体験シートを作成し、体験を通じて学んだことを確認し、1~2年生に報告、アドバイスをする機会としている。

総合的な学習の時間

3年間を通して育てる
社会で役立つ力

同校の普通科では、1学年で基礎学力の養成に力を入れ、2学年から希望進路に沿ったクラス編成を行う。そして、3年間を見通した組織的、計画的、継続的なキャリア教育を総合的な学習の時間「ステップアップタイム」で実施。教務部と学年が中心になって運営にあたりながら、生徒全員の希望進路実現を目指す。なお、学校のキャッチフレーズ「発見・挑戦・実現」は、それぞれが1年、2年、3年のキャリア教育のテーマにもなっている。

進路指導主事の宮本利行先生はキャリア教育を実践するにあたり、主事になる前の3年間、学年主任を務めた経験が非常に役立つという。「3年生から始めるのでは遅い、3年かけてじっくり社会で活躍できる人材を育てなければならぬ」と考えてきました。試行錯誤しながら必要なものを必要ときに徐々に取り入れているうちに、今の形ができたと思っています」といいます。

1学年の最初の取り組みは自分が生まれ育った地域について調べること。同じ出身中学校の生徒がグループを作り、自由なテーマで地域を調べプレゼンをする。体育館でのポスターセッション形式なので、生徒は全員参加で何度も同じ発表を行う

地域連携

地域とのつながりを密にし
地元の協力で模擬面接も

同校は青森県おいらせ町に位置し、町内で唯一の高校である。元々、生徒や教員による祭りやボランティア参加なども盛んだったが、各分掌や学年、教科などが




就職や進学で面接を課される生徒に向け、同校では入学早々こうしたプレゼンの機会を設けており、これは3年間幾度となく繰り返される。

「発表することが大切なのはもちろん、『人の話を聴く』ことも重要。総合学習の中では聴く力も育てたい」と宮本先生。考える、調べる、発表する、聴く、判断する…この学習を繰り返しているうちに必ず力は付いてくるという。

その後、地元企業研究会や職業調べ、2学年での地元企業・大学見学会、就業体験（インターンシップ）、3学年でのテーマ別研究など、ただ講演を聴くだけというような取り組みはない。就業体験のための企業との電話連絡なども、できるだけ生徒自身が行う。

進路指導副主任の天坂美幸先生は言う。「生徒に負荷のかかる取り組みに、最初はとにかく『無理、できない』と言います。それを何度も根気よく繰り返しやらせているうちに、3年生になると、自分で求人票を見て、担任と相談し、面接を受けて就職していくようになっていきます。信じて引っぱれば力が付きます」。同校は2016年3月卒業生の就職内定率100%を達成した。

総合的な学習の時間「ステップアップタイム」と進路指導における地域と連携した取り組み例

1年生	2年生	3年生
地域を知る	就業体験	地元企業合同就職説明会
 <p>同じ中学出身者によるグループ学習。出身地域のことを調べ、発表する。</p>	 <p>希望する地元企業で3日間の就業体験。後輩の1年生に向けて報告会も実施する。</p>	 <p>地元企業の協力で、就職説明会を校内で合同開催。3年生の進路選択の一助とする。</p>

「地元企業研究会」ワークシート

ダウンロード可

地元企業研究会

企業名	企業名
企業内務	企業内務
企業の特徴や地域に特長するイメージ	企業の特徴や地域に特長するイメージ
企業を誇ったところ	企業を誇ったところ
企業にしたいこと	企業にしたいこと

企業名	企業名
企業内務	企業内務
企業の特徴	企業の特徴
企業にしたいこと	企業にしたいこと

地域の中の企業や地域の人の関わりを学ぶことが目的。町の商工会の協力を得て例年10社ほどが参加。1人の生徒が4企業の説明を聞き、その後、グループ内で情報交換する。



実際、キャリア教育の取り組みの多くが地域の協力なくては実施できないものだ。例えば、1年生の12月という時期に地元企業研究会を実施。事前学習をし、グループ形式で地元企業の担当者から業務内容や

また、町には、地元で人材を育て町内または県内に就職してもらいたいというニーズがある。そして、高校側にも、地元から多くの生徒に通ってほしいという希望がある。学校の地域参加への意識が高まるにつれ、町も「高校生のために協力したい」と考えるようになってきた。

1人1人から業務内容や担当者から業務内容や

3学年では、実際の就職面接の直前に、地元の協力の下で模擬面接を実施。PTAや後援会、地元企業人などが生徒の面接をしてくれる。なかには実際の面接官もいて、面接に加え評価もしてくれる。「多くの人のための協力を得て、2回、3回と繰り返し返せば、生徒たちにとって大きな自信につながります」と宮本先生。また、これらの取り組みを通して企業からの生の声を、進路指導に生かすこともできる。

こういった取り組みを通して、町内からの入学者は増加。2016年度は過去10年間で最高の67人が入学した。

受験体験発表会



就職、進学にかかわらず、進路実現を果たした3年生が2年生に向けて体験を語る。



進学指導

生徒の志望に合わせたきめ細やかな進学指導

同校の進学希望者の場合、推薦やAO入試での受験が多い。人数は就職希望者に比べて少ないため、志望校に合わせてほぼオーダーメイドで教員が指導する。英検など、資格取得のための受験料の一部を町が負担してくれることになり、受験者、合格者が増えたことは、今後の推薦・AO受験のモチベーションにもなると期待されている。

また、多くの生徒が生徒会活動に関わり、体育祭や文化祭、中学生向けの体験入学などを主体的・積極的に運営する。このことも推薦・AO入試に役立っているようだ。

百石高校の進路指導のスタンス

生徒の少し先を行き引っぱり上げて力を伸ばす

同校では、家庭科における保育園実習や、学校設定科目「新聞を読もう」による探究型学習など、進路指導部の担当以外でのキャリア教育の視点をもった学習も多い。生徒が視野を広げる機会は、学校教育の様々な場面で存分に設けられているのだ。

「これらの取り組みを通して生徒一人ひとりをしっかり見るのが担任の役目、情報を収集し大きな視点で見渡すのが進路指導部の役目」と宮本先生。「生徒の成長を見ながら、少し先を行くようにしています。生徒を引っ張り上げるような気持ちで、地域も巻き込みながら、素晴らしい努力をする生徒が出てくる。そういう生徒を中心に、学校全体の雰囲気は今よりもっと良くなることを目指しています」という。加えて、全教員がアクティブラーニングの取り組みを積極的に実施している。

町内からの入学者の増加、入試倍率の回復、県内就職者の増加、さらには部活動の活性化や保健室利用者の大幅な減少など、様々な取り組みの成果が現れ始めている。